

スマイルファクトリー・スマイルファクトリーハイスクール
特定非営利活動法人トイボックス

自治体・団体の概要

○運営団体

特定非営利活動法人トイボックス

○規模

現在の支援対象者

48名（男性27名・女性21名）

現在の年齢層

小学3年生から20代前半

職員

常勤職員 5名

非常勤職員 14名

ボランティア 7名

○設立経緯

池田市教育委員会からの委託を中心に、池田市をはじめとするいくつかの自治体と密接な連携を取りながら、広域での不登校やひきこもりなど様々な課題を抱える子どもたちとその家族をサポートする「がっこう」として活動を開始しました。

○連絡先

NPO 法人トイボックス・スマイルファクトリー

代表：白井智子

住所：大阪府池田市五月丘5-3-18

TEL：072-751-1145

FAX：072-751-1058

Email：smile@smilefactory.jp

HP：www.npotoybox.jp

地域の特徴・事業実施の背景

○広域での不登校・発達障がい・ひきこもりへの支援

教育相談などの業務の一部委託を受けている池田市内をはじめ、近隣の豊中市・箕面市・吹田市・能勢町などや、枚方市や東大阪市など広域にわたる不登校、発達障がいのある児童・生徒の通学、通所の受け入れや相談、訪問活動などを行い、総合的な支援機関として機能しています。

また民間団体として通信制高校のサポート校として高校卒業資格が取得可能なハイスクール課程を併設している特色を生かし、義務教育終了後の15歳以上の年齢の若者に対する支援にも取り組んでいます。

○文部科学省「不登校への対応におけるNPO等の活用に関する実践的研究事業」の受託

2009年度、2010年度と文部科学省による「不登校への対応におけるNPO等の活用に関する実践的研究事業」を受託し、発達障がいのある児童・生徒への対応方法を実際の事例を基にして解説し、「発達障害とともに歩む」と題した2冊のハンドブックを作成し、全国の公立学校の先生方や関係機関に配布し、ご活用いただきました。（詳細を次項に記載）

1 事業の内容等

スマイルファクトリーは、2003年池田市教育委員会からの委託を中心に、池田市立山の家にて近隣の自治体（豊中市・吹田市・箕面市ほか）など広域からの不登校や発達障がいなどのある生徒児童などへの支援、スクーリングおよび相談事業を開始しました。あらゆる子どものいいところを見つけ伸ばす方針のもと、子どもの居場所作りを一貫して行っています。

不登校生の中に発達障がい・精神疾患のある児童生徒が多く含まれたことから、現在ではその対応も含め実施しています。また、利用者の要望により、2007年には高校卒業資格がとれるハイスクールも併設しました。

五月山の自然が豊かで静かな環境の中にある社会教育施設「池田市立山の家」の有効活用も兼ねており、全国でも珍しい、公教育と連携した公設民営の不登校サポート施設となっています。

2 事業の特徴

小中学生は、在籍校の校長裁量によりここでの出席が指導要録上の出席扱いとなります。池田市内の小中学生はスクール・相談共に無料。市外の方は月額28000円、定員(約30人。マンツーマン対応ができる体制か、という基準で判断。)オーバーの場合、ウェイティングの可能性あり。高校生は、通信制の星槎国際高校との提携により、当スクールに3年間通うことで高校卒業資格を取得可能。年間費用約68万円。

○発達障がいや様々な問題を抱える子ども・若者への支援

文部科学省「不登校への対応におけるNPO等の活用に関する実践的研究事業」を二か年連続で受託。発達障がいなどの問題を抱える子ども・若者たちへの支援のノウハウを実際の事例を基にしたハンドブックを作成するとともに関係機関や公立学校へ配布し、発達障がいへの理解啓発や対応ノウハウの共有などに役立てました。以下にその一例を記載します。

事例 パニック状態

感覚過敏などがあるHちゃんは授業中に突然、「机から手が離れない！」と叫びだし半泣きのパニック。他の生徒「どうしたの？大丈夫？」

Hちゃん「どうしよう。はなれないよ、どうしたら・・・」

周りの人が動揺して色々落ち着くように声をかけてもHちゃんは余計に過敏になるばかり。

机から手が離れた後も、Hちゃん「ダメだよ！離れないんだもん！」と号泣。興奮状態になりました。(1)

そこでT先生が職員室に連れて行き、

T先生「大丈夫だよ。ちょっとゆっくりしようね。」

と全く何もさせないタイムアウトを取ると、5分から10分で落ち着きました。(2)

落ち着かせる為に周囲からの刺激を少なくして何もさせない場所と時間が必要なケースでした。

ポイント

(1)感情がたかぶったりパニック状態になると大きな声や大人数での対応は刺激が過多になり、興奮状態が続いてしまう場合が多いです。

(2)音や視覚的な刺激を少なくするため、全く言葉かけをせず何もさせない時間を作って落ち着かせてから話を始めると、冷静に理解することができるようになりました。このケースの場合、T先生はそばにいらながらも自分の作業に集中しているふりをし、あえてHちゃんの様子を気にしていないポーズをとりました。



○スクールおよびカリキュラムの特色

- I 不登校の二大原因を学力とコミュニケーション能力ととらえ、個別の学習支援とコミュニケーション能力育成のための体験学習をカリキュラムの柱にしています。
- II 多彩なスタッフ(障がい者施設の元職員、高校の非常勤講師、学習塾経営者、大学院生、臨床心理士、アーティスト、航空機の元整備士、等)のチームワークで子どもをサポート
- III 個人で学習できる部屋をつくったり、攻撃性暴力性のある子どもは最初は個別に対応したりと、どんな子どもでも無理なく徐々に適応できるような体制づくり
- IV 小学生から高校生まで学年の垣根を無くすことによりさまざまな年齢層の子ども同士でコミュニケーションをとる機会をつくっています
- V 学校復帰したい、或いは一定期間山の家に通いたいなど、様々な目標に対応
- VI 通常の個別学習やレポート指導の中で日常的に進路指導・受験指導を実施

○相談機関としての特色

- I 民間機関の柔軟性を活かし、緊急時は24時間対応
- II 人事異動がないため、顔が見える相談体制
- III 家族ぐるみでサポート。家庭訪問、一緒に外出など、あらゆる方法を活用して外へ出るためのきっかけづくり。

3 事業の成果

2009年度	相談・スクーリングのべ件数	8136件
2010年度	〃	8549件
2011年度	〃	6823件

・修了後の進路

中学校卒業後は主に通信制・定時制高校や技能連携校へ。高校卒業後は大学・専門学校・就職などが主たる進路です。一人一人の子どもの適性に合った進路指導に徹した結果、進学率も高くなっています。

水～土曜日に行っているスクールのうち、土曜日には学校復帰した子ども達も参加したり、放課後には沢山のOB・OGが遊びに来たりすることが穏やかな刺激となり、子ども達が自分自身の進路を考えるきっかけになっています。

参考:2011年度修了生10名中 ハイスクール生:大学へ進学 4名 専門学校へ進学 1名
中学生:当法人ハイスクールへ進学3名 外部高校へ進学 2名

4 今後の方向性と展望

発達障がいや精神疾患、あるいは非行やひきこもりなど様々な問題を抱える子ども・若者に対する総合的な支援機関として、今後も周辺自治体、教育委員会や公的支援機関、NPOなどとの連携・協働のネットワークを広げ、子ども・若者やその家族の孤立を防ぐ地域社会を構築していくこと。また、課題を抱える子どもおよび保護者のサポート体制について地域格差ができるだけ少なくなるようにセーフティネットを構築していくことが急務であると考えています。